

# Newsletter

No. 14

秋田英語英文学会



## Akita Association of English Studies

AAES Newsletter No. 14

発行代表者:村上東

2013年(平成25年)11月30日発行

発行所:秋田英語英文学会(AAES)事務局 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1 秋田大学教育文化学部

### Report about 2012 annual conference

The 2012 annual conference was held on June 24th, co-hosted by the Tohoku English Language Education Society [東北英語教育学会] and Akita Association of English Studies.

Yo Hamada presented his research about reasons for demotivation and its prevention. Yasuhiko Wakaari, Yo Hamada, Joe Sykes, and Masako Sasaki reported about their original textbooks written for false beginners of Akita University as its part of remedial education. The symposium followed the research presentations with the title of "Methodological exploration of teaching grammar in the midst of communicative language activities, not before them".

The highlight of the conference was the lecture made by Professor Yoichi Nakashima. He introduced his creative way of teaching grammar, which involved students in the process of learning grammar while using English spontaneously. As expected, many English teachers of junior and senior high schools attended his lecture to obtain some hints for their teaching, which has to be reconsidered to follow the ideas expressed in the new Course of Study.

New



Member

Ben Grafström (ベン・グラフィストロム)  
教育推進総合センター 助教

Greetings! I am an American from Philadelphia, Pennsylvania. My BA is in English Language & Literature from Susquehanna University and my MA is in East Asian Languages & Civilizations (Japanese Literature) from the University of Colorado at Boulder. The topic of my thesis was a Muromachi-period genre called *kōwakamai* [幸若舞]. Now, I am a faculty member of Akita University's Center for Promotion of Educational Research and Affairs [教育推進総合センター]. I teach various English classes for freshmen and sophomores as well as a *zemi*, "Current Teacher

Practices." Currently, my research interests are in education policy & teacher training.

I have been in Japan for four years. Before coming to Japan, I was a high school teacher in Philadelphia. I taught British literature and "world" literature. When I first came to Japan, I was an assistant language teacher in Rausu, Hokkaidō, where I lived for three years. My goal was to become a university teacher, so I was very happy to receive this position at Akita University.

In my free time I enjoy outdoor activities, reading, and music. Ever since I was a first grade student in elementary school I have been interested in Japan, so living in Japan is like a dream come true!

I look forward to starting a doctoral program soon and continuing a successful career as a university professor. But, in the meantime, I am anxious to discover more things about Akita, so if you have any secret spots to visit or favorite places to eat & drink—please let me know!

# Special Feature

## 特集: 「英語教育オープン研修会@秋田大学」のこれまでとこれからの展望

### ◆ はじめに: 時代のうねりの中で

今年5月28日に政府の教育再生実行会議が「グローバル人材」の育成のための提言を安倍晋三首相に提出した。小学校での英語の正式教科化、中学校での「英語による英語授業」、外国語教育に力を入れる高校の「スーパーグローバルハイスクール」の指定、大学段階での派遣および受入留学生数の大幅増加とそれに連動した英語による講義の充実等、小学校から大学までの各段階における英語教育の改革の必要性が具体的に指摘されている。また、9月には2020年に東京オリンピックが開催されることが決定されたことを受けたのか、10月には小学校英語の正式教科化の方針が決定されたことが報道されるなど、改革に対応した動きが確実に進み始めている。8月に文部科学省は、「小中高校でのグローバル人材育成」のために財務省に17億4千万円の来年度予算の計上を求めたというから、教育再生実行会議の英語教育に対する提言は実効性を帯びてきている。

このような流れの中で、グローバルマインドを持った人材育成を具体的に実現するため、大学は新たな舵取りを本格的に求められている。その最中、本学会「秋田英語英文学会」は来年度還暦を迎える。そして、英語科教員養成の使命を担う秋田大学教育文化学部のいわゆる「英語科」は、学部改組により来年度「英語教育コース」として新たなスタートを切る。「秋田英語英文学会」は、これまでの先達の貢献と創意工夫により、「英語科」の様々な側面を支えてきた。学会組織としてよりも同窓会的色彩の強かった頃は、年に一度、教員、卒業生、在学生が一堂に会し、いわば学術的会合同窓会という二面性をもって活動が行われてきた。すなわち、本学会と英語科の間には、紡がれてきた歴史が脈々と流れているのである。英語教育の本格的な改革が始動する時期、この歴史をどのように引き継ぎ展開していくべきかについて考え模索していく必要がある。

今号の特集は、来年度還暦を迎える「秋田英語英文学会」と新生「英語科」の歴史を継続的かつ発展的に紡いでいくひとつの手段となる「英語教育オープン研修会@秋田大学」をご紹介します。このオープン研修会は、2年前から実施されており、秋田英語英文学会が毎回後援している。Newsletter No.12でも第1回から第3回の内容は既に詳細にお伝えした。しかしながら、十分に周知されているとは言い難い。今号では10回分(開催予定の第9回、第10回を含む)の情報について、ポスターを提示しながらまとめてお伝えし、秋田英語英文学会と英語科のコラボレーションの具体的な形としての「英語教育オープン研修会@秋田大学」の今後の方向性を探る機会にしたいと思う。本学会の潜在的機能を活性化させる機会にできればと願う。

### ◆ 志を同じくする人々の輪の活性化 (第1回~第3回)

英語教育オープン研修会 @ 秋田大学 haru-natsu 2011

### 第1回

#### ELT Seminars @ Akita University

Spring-to-Summer Three Seminars

#### ~英語の音に慣れ親しもう~

#### 島岡丘先生

講師: 島岡丘先生 (京大大学院教授・シニア07199-1[言語])

◎秋田会場  
日時: 2011年7月2日(土) 10:00-11:45  
場所: 秋田大学コンソーシアム秋田 カレッジプラザ 大講義室

◎北秋田会場  
日時: 2011年7月3日(日) 10:00-11:45  
場所: 北秋田市交番センター 第1研修室

◎秋田会場 (カレッジプラザ) 案内  
住所: 秋田県秋田2丁目1-51  
開催日: 7月2日  
TEL: 018-826-5455 FAX: 018-836-5388  
アクセス: 秋田駅西口徒歩約5分  
開催料: 40円 (歳上1.5倍以内)

◎北秋田会場 (交番センター) 案内  
住所: 秋田県秋田市大森町2-2  
TEL: 0186-63-2221  
アクセス: 大森駅西口徒歩5分 開催料: 40円

◎秋田会場 (カレッジプラザ) 案内  
住所: 秋田県秋田2丁目1-51  
開催日: 7月3日  
TEL: 018-826-5455  
アクセス: 秋田駅西口徒歩約5分  
開催料: 40円 (歳上1.5倍以内)

◎北秋田会場 (交番センター) 案内  
住所: 秋田県秋田市大森町2-2  
TEL: 0186-63-2221  
アクセス: 大森駅西口徒歩5分 開催料: 40円

主催: 秋田大学教育文化学部「家づくり総合エリア」プロジェクト事務局後援委員会、秋田県教育委員会 (英語科教育) 後援: 秋田県教育委員会、秋田県英文学会、東北英語教育学会秋田支部  
後援: 秋田県教育委員会、秋田県英文学会、東北英語教育学会秋田支部  
お問い合わせは: <http://apple.cerp.akita-u.ac.jp/kyoushoku/> をご覧ください。

英語教育オープン研修会 @ 秋田大学 haru-natsu 2011

### 第2回

#### ELT Seminars @ Akita University

Spring-to-Summer Three Seminars

#### ~プロジェクト型外国語活動~

#### 東野裕子先生

講師: 東野裕子先生 (西宮市立高木小学校教諭)

◎秋田会場  
日時: 2011年7月23日(土) 14:45-16:30  
場所: 秋田大学教育文化学部3号棟 3-150号室

◎北秋田会場  
日時: 2011年7月24日(日) 10:00-11:45  
場所: 旗岡公民館 多目的ホール1

◎秋田会場 (旗岡公民館) 案内  
住所: 秋田県秋田市中区旗岡1-140  
TEL: 0182-206-3360  
アクセス: JR 秋田駅西口徒歩約15分 または 旗岡駅西口徒歩約5分  
開催料: 40円 (歳上1.5倍以内)

◎北秋田会場 (旗岡公民館) 案内  
住所: 秋田県秋田市中区旗岡1-140  
TEL: 0182-206-3360  
アクセス: JR 秋田駅西口徒歩約15分 または 旗岡駅西口徒歩約5分  
開催料: 40円 (歳上1.5倍以内)

主催: 秋田大学教育文化学部「家づくり総合エリア」プロジェクト事務局後援委員会、秋田県教育委員会 (英語科教育) 後援: 秋田県教育委員会、秋田県英文学会、東北英語教育学会秋田支部  
後援: 秋田県教育委員会、秋田県英文学会、東北英語教育学会秋田支部  
お問い合わせは: <http://apple.cerp.akita-u.ac.jp/kyoushoku/> をご覧ください。

英語教育オープン研修会 @ 秋田大学 haru-natsu 2011

### 第3回

#### ELT Seminars @ Akita University

Spring-to-Summer Three Seminars

#### ~外国語活動を楽しもう~

#### 森田卓先生

講師: 森田卓先生 (岸和田市立八木小学校教諭)

◎秋田会場  
日時: 2011年7月31日(日) 10:00-11:45  
場所: 秋田大学コンソーシアム秋田 カレッジプラザ 大講義室

◎秋田会場 (カレッジプラザ) 案内  
住所: 秋田県秋田2丁目1-51  
開催日: 7月31日  
TEL: 018-826-5455  
アクセス: 秋田駅西口徒歩約5分  
開催料: 40円 (歳上1.5倍以内)

◎北秋田会場 (交番センター) 案内  
住所: 秋田県秋田市大森町2-2  
TEL: 0186-63-2221  
アクセス: 大森駅西口徒歩5分 開催料: 40円

◎秋田会場 (カレッジプラザ) 案内  
住所: 秋田県秋田2丁目1-51  
開催日: 7月31日  
TEL: 018-826-5455  
アクセス: 秋田駅西口徒歩約5分  
開催料: 40円 (歳上1.5倍以内)

◎北秋田会場 (交番センター) 案内  
住所: 秋田県秋田市大森町2-2  
TEL: 0186-63-2221  
アクセス: 大森駅西口徒歩5分 開催料: 40円

主催: 秋田大学教育文化学部「家づくり総合エリア」プロジェクト事務局後援委員会、秋田県教育委員会 (英語科教育) 後援: 秋田県教育委員会、秋田県英文学会、東北英語教育学会秋田支部  
後援: 秋田県教育委員会、秋田県英文学会、東北英語教育学会秋田支部  
お問い合わせは: <http://apple.cerp.akita-u.ac.jp/kyoushoku/> をご覧ください。

島岡丘先生は、本学会でご活躍いただいている三浦順治先生のフルブライト留学の同期、そして幸野稔先生とは音声学という学問領域を同じくする研究者同士である。若有保彦先生の学会でのつながりがあって講

師にお願いした。東野裕子先生は、佐々木がタスクを用いた教授法を研究していることから知り得た小学校の先生であり、タスクの一つの形であるプロジェクトを小学校の外国語活動で実践している。森田卓先生は、若有保彦先生の学部生時代の先輩であり、動機付けを高める外国語活動を実践している小学校の先生である。秋田英語英文学会は、このように先輩から後輩へと人脈をつなげる機能を持つ。そしてまた、教育研究分野を同じくする人との出会いを膨らませる可能性を持っている。広げよう、人脈を。英語教育というグラウンドで、自分の考えや実践について、志を同じくする人々と共有する場を提供してくれる機能をオープン研修会は果たすことができる。

◆ 大学の実践的教育研究活動に興味をもつていただく (第4回～第6回)

英語教育オープン研修会は、科学研究費補助金の助成を受けた「地域連携による『外国語活動総合教育システム』のモデル構築と検証」という研究事業(平成23年度～25年度、会員では若有保彦先生、濱田陽先生、佐々木雅子がメンバー)の一環として発案された研修会である。平成24年8月には小学校の現職の3人の先生が研究費を研修費の一部に充ててオ

ーストラリアのグリフィス大学で研修を受けた。その報告会が第4回に行われた。第5回では発音トレーニング、第6回では読み聞かせ指導が行われた。茶話会も設定され、好評であった。参加者はネットワークを広げ情報交換の機会としていた。オープン研修会は、非公式に和やかに交流できる会を設ける機能をこれからも果たしていくとよいと実感した。

◆ 小中高連携の場(第7回～第9回)

第1回からこれまで第8回で取り上げたテーマは、おもに小学校外国語活動に関したものであった。しかしながら、参加して下さった参加者の方々は小学校の先生だけではなかった。中学校、高校の先生の参加も少なくはなかった。また、一般の方も興味関心をもって参加して下さった。この参加者の傾向は第1回から通して見られたものであった。参加者の注目される感想として、中学校の先生が書かれたものをご紹介します。「小中一貫の連携として小学校を訪問して教えることがあるが、中学校で教えているようにはいかない。小学生にはどのように教えたらいのか模索している。」連携について模索している先生は少なくない。

第7回、第8回は音声指導へのヒントを提供するものであった。外国語活動では教師が教え込むのではなく、児童自らが五感を使って体感する点が重要である。英語の音を感じるために、教師がどのようなアプローチをとったらよいか考えていただく機会となった。小中高の先生たちはお互いに、どのように英語教育が校種間で

連携して実践されていくべきか模索している。連携の理想的な姿を思い描ければ、それに向かって試行錯誤していくことができる。しかし、現段階ではその理想的な連携の姿さえ十分に具体的には描ききれていないのではないだろうか。、オープン研修会は、情報交換を気軽に行いながら、ひとりひとりの先生が実践と理論の双方向から具体的に追究できる機会を提供する機能を持っている。

### ◆ 今年度これからの予定

さて、12月14日(土)13:30~15:00には、若原保彦先生を講師として「外国語活動における国際理解」と題した第9回オープン研修会を開催する。グローバルマインドを持った人材育成はどのようになされ得るのか、小学校の外国語活動における可能性を考察するのに良い機会である。中高の先生たちも小学校で行われる国際理解をどのように段階的に発展させたらよいかという視点で参加していただければと思う。

また、2月には海外から研究者をお招きして第10回オープン研修会を行う計画も立てている。英語を自由に操って英語教育の専門家としてボーダーレスに活躍する意味を感じ取ってもらえる機会になるものと思う。

英語教育オープン研修会は、参加者の方々に、「英語教師の仕事はもっとおもしろく楽しいものに発展していく」と実感してほしいと思っている。会員の皆様には是非興味を持ってオープン研修会に参加していただき、より豊かな英語教育の明日を描きながら、地に足のついた改革を協力して行っていただくことを、切にお願いするものである。

## Updates

特集でもお知らせいたしましたが、教育文化学部の学部改組により、いわゆる英語科は来年度「英語教育コース」として新たなスタートを切ります。どんな風になるのか、パンフレットの一部を掲載してお知らせいたします。

AKITA UNIVERSITY  
新・英語教育コース  
COURSE FOR ENGLISH LANGUAGE TEACHERS

Gain valuable professional education here,  
if you want to be a full-fledged English teacher.

The choice is yours.

We do these for you:

- I. 小学校から高校まで連携した英語教育を実践できる英語教員を養成します。
- II. 英語教授力、英語力、異文化間コミュニケーション能力、教育力という4能力を統合的に発揮する英語教員を養成します。
- III. 英語力のみならず異文化間コミュニケーション能力を持ち、学校教育における異文化理解教育を推進し、次世代のグローバル人材を育成する英語教員を養成します。
- IV. 客観的評価基準に基づいた質保証を行う英語教員養成コースです。

今後どのように充実発展していったらよいかご支援およびご意見をいただければ幸いです (shimazak@ed.akita-u.ac.jp 佐々木雅子までご連絡ください)。

### Features

**英語力と英語教授力の質的保障**～TOEFLiBT80点、英検の準1級の獲得を必須とする。短期英語研修や留学を積極的に生かすきめ細やかな指導を段階的に行う。英語教授知識認定テスト (TKT)で Band 3以上を取得する。

**◆英語力、英語教授力、異文化間コミュニケーション能力の統合的育成**～理論と実践に双方向性のあるコースを実施する。留学生、外国語指導助手(ALT)、海外の協定校における英語教員コースとの交流も含む。英語を共通言語として外国語としての英語教育を探究する。

**◆地域連携による教育研究組織**～学校現場、教育委員会、教育センター、英語教員コース、実践センター、分校、海外の協定校との連携が可能にする。

**◆フィールド・ワーク型学習の深化発展**～附属学校園、周辺地域および県内の要請のある学校と連携し、実地体験学習を授業と密接に関連させ理論と実践の双方向性を高める。

**◆国内の他大学英語教員コースとの連携**～互いに実践を紹介するなどして切磋琢磨し、全国レベルで活躍できる教員を育成する。

**◆ポートフォリオの作成**～大学生活の実践をポートフォリオという形でまとめることとする。多角的で充実したカリキュラムを振り返る資料とし、生涯を通じたプロフェッショナル・アイデンティティーの発展に寄与するものとする。

2011年度に小学校での外国語活動が全面実施されたことにより、日本の英語教育は小学校の「外国語活動」から開始されることとなった。この改革を実質的に実りある改革とするために、秋田大学英語教育コースは、小中高を連携させた一貫した英語教育を実施できる英語教員を育成します。

\*\*\*\*\*

*Editor's postscript*

It's been a year since the last issue, No. 13, was sent to you. This is all my fault. Once I am away from a certain kind of work for a certain period of time, it's very difficult to go back to it. I just apologize for this delay. Now, I feel so relieved and glad to send some information about Ben-sensei and ELT seminars@Akita University. I just hope that this delay has made you miss this newsletter and enjoy reading it more than before!(Masako S.)

Editorial board: Yoshimi MIYAKE, Masako SASAKI